

テーマ：サイクリストの聖地うつのみや

宇都宮大学 3 年 滝田祥子 平田真美

発表するにあたって

宇都宮市では、2005 年から「大学生によるまちづくり提案」が行われている。これは、毎年決められたテーマのもと宇都宮市内にある大学の学生団体が独自の発想や視点から取り組んだ地域課題に関する調査や実践活動を踏まえて作成された施策内容である。今回は「宇都宮のブランド力アップ」～100 年先も誇れるまちを みんなで～ がテーマとなっており、私たちは世界的に見直されている自転車に注目した。宇都宮市では、アジア最高峰の自転車ロードレース大会、「ジャパンカップ」が 1992 年以降毎年開催されており、またプロ自転車ロードレースチームが設立されたことや宇都宮市の地理的条件がサイクリングに適していることから、近年自転車愛好者が増加している。宇都宮市はサイクリススポーツのまちとして発展していくための十分な要素がそろっていると見えるだろう。そこで宇都宮市を事例に自転車をスポーツとして盛り上げ、まちの発展に繋げていくための提案を行いたい。

1. はじめに

自転車は交通手段としてや、環境に優しく有効活用ができるという点で世界的に見直されおり現在では健康維持や、スポーツとしての人気も高まっている。今や自転車は単なる移動のための乗り物ではなく、新たなライフスタイルの象徴となっている。これは世界的なブームとして広がっており、特にヨーロッパでは日本に比べて早い段階から自転車の活用がすでに始まっている。日常の足として利用されているだけでなく、スポーツやレクリエーションの一貫として利用されている。その背景として、自転車競技大会が市民の間近で行われていることにより、市民の自転車への関心度が高まり、自転車を利用する市民が増加し、それによって政府の自転車政策が進んだと言える。

日本でも自転車をスポーツやレクリエーションとして楽しむ人が増加している。実は、宇都宮市では世界最高峰の自転車ロードレースである「ジャパンカップサイクリロードレース」が開催されていてこうした自転車をスポーツやレクリエーションとして楽しむ人々にとっては知名度が高く、開催地周辺にはサイクリングに適した自然豊かなサイクリングコースが充実している。これらを背景に、宇都宮市では自転車スポーツを楽しむ市民が増加しており、県外からもサイクリングをしに訪れる人が多い。

そこで、本提案では宇都宮市が「サイクリススポーツのまち」としての魅力に溢れていることに着目して、より多くの市民がサイクリススポーツを楽しみ、また市外の人々にとっても「サイクリススポーツのまち」として知ってもらい訪れてもらうことで、自転車をスポーツとして楽しめるまちを目指す。

具体的には「ジャパンカップサイクリロードレース」を盛り上げるための提案とサイクリングコースを紹介するマップを作成し、提示することを提案したい。

2. 宇都宮市におけるサイクリススポーツの現状と課題

1) 宇都宮市におけるサイクリススポーツの現状

① 「ジャパンカップサイクリロードレース」の開催とサイクリススポーツ愛好者の増加

宇都宮市では、1990 年に自転車ロードレースの世界選手権大会が当市の郊外にある宇都宮森林公園で開催されたのを機に、1992 年からそこで使用された同公園内のコースが整備

テーマ：サイクリストの聖地うつのみや

宇都宮大学 3年 滝田祥子 平田真美

され、毎年「ジャパンカップサイクルロードレース」が開催されている。このレースは、現在アジアにおける自転車ロードレースの最高峰に位置づけられ、世界の第一線で活躍している選手が参戦するため市内外を問わず、サイクルスポーツ愛好者の絶大な人気を得ている。会場が市街地から離れているにも関わらず、6万人の観戦者が訪れ、大会は熱気に包まれる。宇都宮市が昨年実施した『2008 Japan Cup Cycle Road Race 会場アンケート調査結果』¹⁾によると、県内から訪れた観戦者は全体の25.5%と前年の調査の14.1%を上回った。また、会場までの交通手段も自転車の割合が増加し、再観戦を望む観戦者も増加した。

このように、市街地から自転車で観戦に来る市民が増加しており、また県外からの観戦者も増加している。特に県外からの観戦者は自転車を持ち込み、当日自転車で会場に向かう人が多く見受けられ大会前日に宿泊する人も少なくない。

図表1はアンケート結果をまとめたものである。

図表1 「2008 Japan Cup Cycle Road Race 会場アンケート集計結果」

再観戦願望

	必ず来たい	出来れば来たい	その他
2007年	57.6%	39.6%	2.8%
2008年	66.6%	33.1%	0.3%

観戦者居住地

	栃木県	東京都	その他
2007年	25.5%	23%	51.5%
2008年	14.1%	23.2%	62.7%

会場までの交通手段

	自家用車	電車	自転車	その他
2007年	73.7%	17.1%	8.4%	0.8%
2008年	58.7%	21.2%	17.8%	2.3%

出典：ジャパンカップサイクルロードレース実行委員会『2008 Japan Cup Cycle Road Race 会場アンケート集計結果』(2008年10月実施)を参照。

写真1 2009年 JAPANCUP の様子



出典：筆者撮影による
(2009年10月25日)。

こうした背景から地元宇都宮市民でサイクルスポーツを楽しむ人は多く近年増加している。また、ジャパンカップの会場の森林公園とその周辺がサイクリングに適したコースになっている。何人かの地元サイクルスポーツ愛好者から話を聞いたところ、森林公園を起点として日光方面へ向かうルートが「聖地」として親しまれており、休日になると多くの愛好者がサイクリングを楽しんでいる。そのコースの交通量は極めて少なく、風光明媚で初心者から上級者を問わず、楽しめるコースであるということだ²⁾。更に中心地からそのコースへ向かうには、安全な抜け道があり、そこは比較的交通量が少なくなっている。

実際に筆者は11月のある休日にそのコースを通過してみたが、休日にも関わらず交通量が

¹⁾ジャパンカップサイクルロードレース実行委員会 『2008 Japan Cup Cycle Road Race 会場アンケート調査結果』2008年

²⁾「BLITZEN 宇都宮プロレーシングチーム」取締役砂川氏への筆者インタビュー調査(2009年10月30日)による。また、複数の地元のサイクルスポーツ愛好者への筆者インタビュー調査による。

テーマ：サイクリストの聖地うつのみや

宇都宮大学 3年 滝田祥子 平田真美

少なく、市街地とは異なり平坦な直線道路が続く場所が多く、豊かな自然も広がっている
ので初心者でも気軽にサイクリングが楽しめるコースであった。また、信号機も少ないの
で信号待ちをする時間が省け、長距離を走りたいサイクリストにとっても快適だと感じた。

②「BLITZEN 宇都宮プロレーシングチーム」の事業

「BLITZEN 宇都宮プロレーシングチーム」(以下「BLITZEN」)は、2008年に設立され
た地域に密着したプロ自転車ロードレースチームで、地元の自転車愛好者に人気があり、
宇都宮のサイクルスポーツの盛り上がり大きな役割を果たしている。プロロードレース
の参加のほかに自転車を中心としたスポーツ教育活動も行っている。今年の7月には、
「BLITZEN」が主催したサイクルピクニックが行われ、宇都宮市内のコースを距離別、レ
ベル別に3つに分け、交通マナーや自転車の良さを知ると同時に観光や宇都宮の自然の良
さを体感する大会が行われた。また、今年から定期的に栃木県内で子ども向け自転車教室、
「ウィーラーズスクール」を開催し、交通マナーや自転車の安全な乗り方の指導を行って
いる。「ウィーラーズスクール」とは、自転車の操作技術の向上やサイクルスポーツを楽しめる
環境を通じて、競技人口の拡大を目指し、サイクリストの養成の基盤になること目的とし
ており、全国各地で実業団チームの選手などが指導にあたり、定期的に行われている。

写真2 自転車教室の様子



写真3 サイクルピクニックの様子



出典:下野新聞「SOON」自転車ブ
ロ選手安全な操作指南 (2009
年2月19日配信)。

写真4「BLITZEN」のメンバー



出典:下野新聞「SOON」自転車与自然満
喫-宇都宮でサイクルピクニック
-(2009年7月5日配信)。

出典:2009 ジャパンカップ

③競輪場の事業、出場チームより。

また、宇都宮競輪場も本市におけるサイクルスポーツの盛り上げに一役買っている。今
年になって競輪場がリニューアルされたが、競輪でも新規ファンの獲得のため様々な施策
を行っている³。場内の環境整備を重点的に行い、競輪場に隣接している八幡山公園から場
内のレストランやエントランス広場への行き来を可能にし、場内のシアターホールの貸し
出しも始めた。また、今年から「BLITZEN」の選手にも無料でコース内での練習ができる
ようにするなど競輪場を開放している。

年に一度、自転車に乗る事が出来ない小学生を対象に自転車教室を開催し、人気を集め
ている。しかし、講師を静岡の競輪学校から招いて指導をしているため、講師不足の問題
は避けられない。そこで今年から「BLITZEN」の選手を講師として招き指導してもらう事
を検討している。

以上のことから宇都宮市は、「ジャパンカップ」の開催や地域に密着したプロレーシング
チームの存在、また自転車スポーツとしての認識が徐々に高まりつつあることなどから考
えると、サイクルスポーツの環境が充実していると言える。そして何よりも快適なサイク

³ 以下は、2009年10月17日宇都宮市経済部公営事業所副所長枝村氏への筆者インタビュー調査による。

テーマ：サイクリストの聖地うつのみや

宇都宮大学 3年 滝田祥子 平田真美

リングコースがあることでサイクルスポーツを楽しむ市民が増加し、市外からもサイクルスポーツ愛好者が宇都宮森林公園周辺の快適なサイクリングコースを何度も訪れ、サイクリングを満喫している。

2)宇都宮市におけるサイクルスポーツの課題

先に挙げたように様々な分野において自転車をスポーツとして楽しめる魅力があるにも関わらず、いくつかの課題があると思われる。

第一に「ジャパンカップ」についてである。大会には県外からも観戦者が多く、認知度も高い「ジャパンカップ」ではあるが、宇都宮市民の認知度は未だに低い。大会の前日には、オリオンスクエアでオープニングイベントが開催され、会場はファンで埋め尽くされる。オープニングイベントでは子ども自転車教室の開催や角界の著名人によるトークショー、そして大会に出場するチームのプレゼンテーションが行われる。特にプレゼンテーションは、選手から直接コメントを聞くことができるためイベントの中でも一番人気がある。しかし、盛り上がりを見せているのはオリオンスクエアのみで、通りやその周辺にはオープニングイベントの告知もなく、イベントが開催されているのかどうか分かりにくい。また、イベントが開催されている時間帯は通りにある飲食店などはすでに閉店しており、オープニングイベントのみ通りから隔離されたような空間になってしまっている状態である。

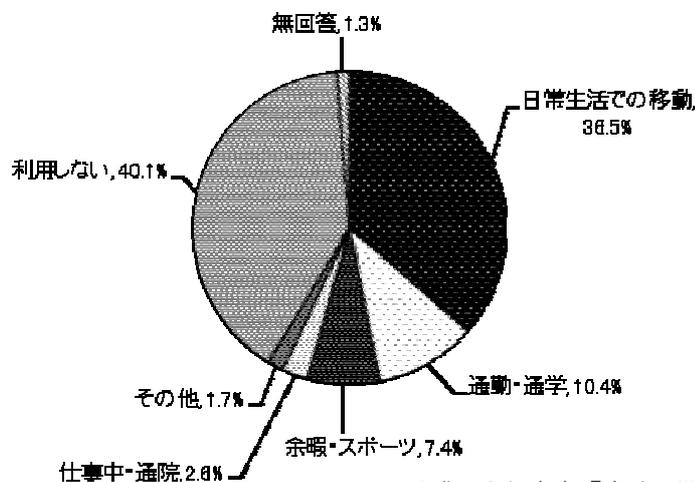
また、「ジャパンカップ」に自転車で会場に向かう観戦者が年々増加しているが、会場までアクセスする際に詳しい表示が街中にないため、会場に行く時間がかかり迷ってしまうことも考えられる⁴。自転車で会場に向かう観戦者がアクセスしやすいように交通の面からも政策を考える必要があるだろう。

第二に、宇都宮市は一步郊外へ足を踏み出せば快適なサイクリングコースがあるにも関わらず、そのコースは一部のサイクリストしか利用していないため、PRしていくことによってサイクリングを楽しみたい市民も利用できるようにしていくべきだと考える。サイクリングに快適だと言われているコースは日光市まで続いているため、ある程度自転車を乗りこなせるサイクリストであれば、自転車で日光市を観光することも可能になる。特に観光シーズンは、自動車の渋滞を避けるためにも自転車で周辺の景色を楽しみながら日光市の観光を訪れたほうがより満喫出来るだろう。

第三に根本的な問題として、市民が自転車をスポーツやレクリエーションとして捉える認識が低いことがある。宇都宮市がまとめた『市政に関する世論調査結果概要—第42回 平成21年度—』の自転車利用のアンケートによると、「日常生活の移動」が36.5%、「通勤・通学」が10.4%と全体の約半分を占める一方で、「余暇・スポーツ」の目的で自転車を利用する市民はわずか7.4%しかいなかった。この結果の背景には、「ジャパンカップ」の認知度が低いこと、サイクリングコースの存在が知られていないことがあると考えられる。

⁴ 以下は、2009年10月24日にオリオンスクエア内で行われたオープニングイベントの際に行った来場者への筆者のインタビュー調査による。

図表 2 「自転車利用の目的」



出典：宇都宮市『市政に関する世論調査結果概要一第42回 平成21年度一』7.自転車利用の目的についてを参照して筆者作成。

3. サイクルスポーツの聖地うつのみやを目指して

1) 「ジャパンカップ」のブランド力の向上

「ジャパンカップ」をより盛り上げていくことで宇都宮市の「サイクルスポーツのまち」としてのブランド力を高めることが必要だ。そのために、第一にオープニングイベントをまちの活性化につながるよう工夫することを提案したい。オープニングイベントは先述したように、盛り上がり不足、改善点が多いと思われる。来場者の話によると、自転車のイベントにも関わらず、自転車専用ブースが狭く、店舗数が少ないとのことだった⁵。そのため、来年度からは自転車のブースを拡大するべきだ。オリオンスクエアという市民に間近な場所で行うイベントのため、スポーツ用自転車の試乗会や、ファッションなウェアの展示等を行い、子どもや一般市民にも分かりやすく、足を運びやすくする必要がある。また、オリオン通り全体としても、オープニングイベント終了時には閉店している店が多く、盛り上がり不足のため、各店舗と協力し終了後 1 時間程度は店を開けておくことや、横断幕やポスターの数を増やすといった体制を整えることも重要だ。

次に、「ジャパンカップ」の開催に当たり、会場までのアクセス、特に自転車によるアクセス性を高める提案をしたい。近年では会場まで自らの自転車で訪れるファンが増えており、県外からの観戦者はそれを電車で運ぶことが多い。そのため、大会当日と前日の 2 日間、鉄道会社と連携して「自転車専用車両(サイクルトレイン)」⁶を運行することを提案したい。サイクルトレインは欧州で普及しており、近年では日本でもイベント等⁷に合わせ運

⁵ オープニングイベントに訪れていたファンへの筆者インタビュー調査(2009年10月24日)による。

⁶ 自転車を鉄道車両内に持ち込むことが出来るサービスのこと。

⁷ 2008年に、サンポート高松で開催された自転車の祭典「サイクルタウン香川自転車ワールドフェスタ2008」の開催にあわせ、運行された。

テーマ：サイクリストの聖地うつのみや

宇都宮大学 3年 滝田祥子 平田真美

行する中小私鉄が増加している。そのため、「ジャパンカップ」開催時にサイクルトレインを運行することで、首都圏からの観戦者増加を見込むことが出来る。

第三に、これに関連して、県外から自転車で宇都宮を訪れたファン向けに、自転車を持ち込みやすい宿泊施設の提供を行う。具体的には、「ジャパンカップ」に訪れた宿泊者が多く利用するという宇都宮駅～東武宇都宮駅付近のホテルと協力し、自転車を止めておけるスペースの設置や、周辺施設と連携し、自転車を持ち込んだ客に特典(宇都宮で有名な餃子屋のクーポン等)を与える。これによって、周辺のホテルや協力する施設の宣伝にも繋がり、自転車によるまちづくりの一環となる。

最後に、県外から「ジャパンカップ」を見に来たファンは、宇都宮の地理的知識に乏しく、中でも自転車で訪れたファンは森林公園までの道が分かりづらい。これらのファン向けに宇都宮駅から森林公園間に看板や標識を設置する。この標識により、毎年「ジャパンカップ」を訪れるファンが自転車で行きやすくなる上、大会以外の日に自転車で森林公園周辺のコースを利用する自転車愛好者の増加に繋がるだろう。後に、森林公園までの快適なルートを「聖地への抜け道」として示しているのを参照してほしい。

2)サイクリングマップで聖地を攻略

これまでにも述べてきたように、宇都宮市にはサイクリングに適したコースが数多く存在しているにも関わらず、その存在は一部のサイクリングスポーツ愛好者に「聖地」として知られるにとどまり、市民にはほとんど知られていない。そのため、筆者がこれまで取材した中でサイクリングの聖地として相応しいと感じたコースを、サイクリングマップとしてまとめた。

具体的なマップ作成にあたり、宇都宮の地理的条件を活かした快適なサイクリングコースを設定する。宇都宮市は「ジャパンカップ」が開催される森林公園のコース以外にも、地理的条件からサイクリングに楽しめる環境が整っており、休日でもロードバイクに乗って余暇を楽しむ市民の姿が見受けられる。設定するコースは、**JR** 宇都宮駅をスタート地点とし、小来川周辺までの道のりとする。まず、市街地から森林公園付近までの道を「聖地への抜け道」として設定した。さらにその先のコースを道路条件や目的に応じて「歴史探索コース」「田舎道満喫コース」「聖地小来川周回コース」の**3**つに分け、誰でも気軽にサイクリングを楽しめるようにする。

聖地への抜け道

このルートを提示した背景には、これまで「ジャパンカップ」を観戦しに行くファンや、森林公園付近でサイクリングを楽しむ市民が、大通りを通るといったケースが多かったことが挙げられる。しかし、大通りは交通量が非常に多く危険を伴うため、サイクリングに適しているとは言い難い。その点、市街地から森林公園へ至る道の中には、あまり知られてはいないが交通量が少なく安全な抜け道が存在している。そのため、これまで一部のサイクリストにしか知られていなかったその抜け道を正式なルートとして提示することで、市民が安全にサイクリングを楽しめる環境を提案したい。

①歴史探索コース(宇都宮駅東口→宇都宮森林公園または大谷資料館付近)

当コースでは、初心者でも挑戦しやすいように比較的なだらかな道路を設定した。また、ゴールには日本最古の石像である大谷観音や戦没者の霊を弔うために建てられた平和観音などの歴史的建造物や、当市において有名な大谷石の資料館が存在するため、サイクリングがてら気軽に観光を楽しむことができる。

森林公園は、「ジャパンカップ」のコースも含まれており、起伏が激しく体力も消耗しや

テーマ：サイクリストの聖地うつのみや

宇都宮大学 3年 滝田祥子 平田真美

すいが、選手の気分を味わうことが出来るためお勧めだ。

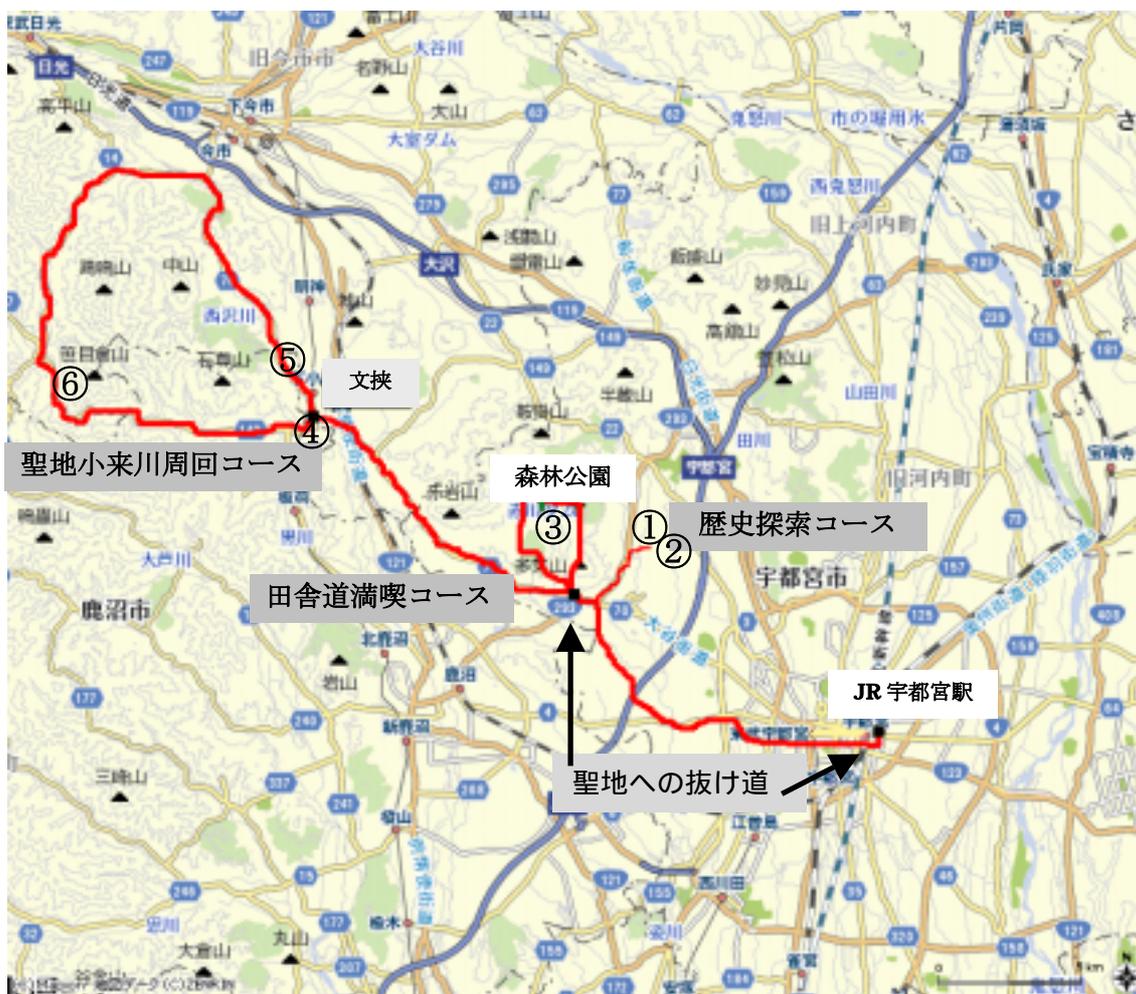
②田舎道満喫コース(宇都宮駅東口→宇都宮森林公園→落合直売所)

当コースの魅力は、ゴールに設定した落合直売所やのどかな道のりである。落合直売所では、地元で採れた農産物やそれらを使用した米粉パンなどの食品が販売されており、田舎ならではの味を楽しむことができる。また、トイレも完備されているため、休憩所としても利用できる。

③聖地小来川周回コース(宇都宮駅東口→宇都宮森林公園→落合直売所→小来川周回)

当コースが言わば「サイクリストの聖地」である。歴史探索コースが初級、田舎道満喫コースが中級とすると、ここは上級者向けのコースだと言える。小来川周辺は、山に囲まれており、他のコースとは比較にならないほど起伏が激しいが、交通量は極めて少ないため、本格的にサイクリングを行うことができる。コース内には、サイクリストがよく立ち寄るといふ、通称「水飲み場」と呼ばれる「湧き水」があり、休憩所としても親しまれている。また、黒川に沿って走る箇所もあるため、四季折々の絶景を満喫することができる。付近には観光名所は少ないが、お食事処として蕎麦屋が多く存在してあるため、隠れた名店を探すこともサイクリングの楽しみと言えるだろう。

図表 3 「聖地攻略マップ」



出典：Mapion 地図データを使用し筆者作成。

テーマ：サイクリストの聖地うつのみや

宇都宮大学 3年 滝田祥子 平田真美

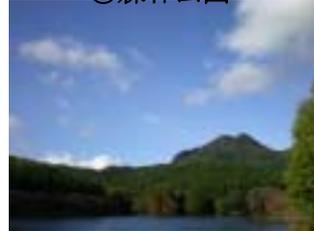
①大谷資料館



②平和観音



③森林公園



④落合直売所



⑤湧き水



⑥小来川の絶景



出典：写真は筆者撮影による(2009年11月3日)。

おわりに

今回「ジャパンカップ」を中心にサイクルスポーツを通したまちづくりを提案していく中で宇都宮市郊外の重要性に気付かされた。これまで、まちづくりと言えば主に中心部を対象としたものが多く、郊外にはあまり目を向けられてこなかったが、宇都宮市の郊外には地域を更に活性化する要素が数多く存在している。中心部と郊外が一体化した政策を行っていくことで、より当市の発展に結びつくだろう

□参考資料

下野新聞

<http://www.shimotsuke.co.jp/news/tochigi/region/news/20090219/112988>

<http://www.shimotsuke.co.jp/news/tochigi/sports/blitzen/news/20090705/169618>

毎日新聞 2009/07/11 掲載記事 「自転車でもちづくり宇都宮」

2009/10/28 掲載記事 「くらしナビ 都心移動に共用自転車」

朝日新聞 2009/10/08 掲載記事 「生活 貸自転車でCO₂減らせ」

週刊ダイヤモンド「特集 自転車が熱い!」2009/09/26

宇都宮市『市政に関する世論調査結果概要—第42回 平成21年度—』

ジャパンカップサイクルロードレース実行委員会 『2008 Japan Cup Cycle Road Race 会場アンケート調査結果』2008年